

問 防災のさらなる備えは

自助・共助・公助の強化が大切である。地域人材としての女性防災リーダーの推進を、具体的にできないか。災害廃棄物置場とタイムラインは、どうなっているか。公園は災害時に拠点にもなる。かまどベンチや、マンホールトイレなどの防災機能をプラスしては。

答 今後も継続し、強化充実させていく

防災への女性の参画を支援し、自助・共助の強化に努めていく。公助の強化としては、災害廃棄物置場として市有地から11か所を選定した外、洪水時におけるタイムラインのさらなる充実を図っていく。また、公園への防災機能付加についても今後検討していく。



菱沼あゆ美 議員
(公明党)



かまどベンチ

問 がん対策の向上を

がん検診率の最近の傾向は、どうなっているか。受診率アップのために、キャンペーン時などに合わせたPRや、PTA保護者への啓発を考えてはどうか。また、将来をみすえ、子どもたちへのがん教育が重要と考えるが、取組状況を伺う。

答 体制整備に努め、健康教育の推進を図る

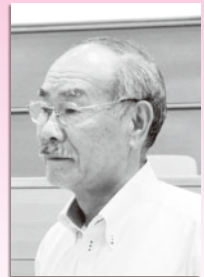
受診者数は、おおむね増加している。今後も対象者へ情報が届くよう、啓発活動の見直しや、実施体制の整備に努めていく。学校では病気の予防や生活習慣の確立など、がんについて健康教育の一環として行っている。今後もがん教育を含む健康教育の推進を図る。

問 通学路の安全確保を

各小中学校の通学路においての白線およびグリーンベルトの設置条件、年間設置計画はどのようになっているか。また、通学路が朝の出勤時の自動車などの抜け道と交差する場所があり、大変危険である。横断歩道や学童横断注意の看板など設置する考えはないか。

答 緊急性の高い箇所を優先し設置していく

通学路の白線やグリーンベルトは、通学路点検の結果にもとづき、緊急性が高い箇所を優先し順次設置していく。今年度の整備計画は、白線を約1,500m、グリーンベルトを約600m予定している。交通安全看板は、行政区などからの要望にもとづき設置していく。



松本栄一 議員
(創政会)



通学時の様子

問 第5次総合振興計画の 菁莪地域活性化は

県道春日部菖蒲線の沿道について商業サービス施設の誘導を図っているが、県の事業である岡泉調節池の整備が進んでいる。その周辺を水辺の公園などに整備して菁莪地域、さらには市民の憩いの場とし、商業サービス施設誘致の起爆剤とする考えはないか。

答 さまざまな角度から研究していく

菁莪地域の活性化のための、県道春日部菖蒲線沿線への商業施設の誘導については、岡泉調節池周辺の環境整備も、起爆剤のひとつの手法に含めながら、さまざまな角度から研究していく。